

(4) ブドウ

〔果樹類>落葉果樹>ベリー類等の小粒果実類>ぶどう〕

① 防除のポイント・注意事項

病虫害名	防除時期	摘要
褐斑病	休眠期	・発芽前から、予防散布する。
	幼果期 生育期	・病原菌は葉裏から侵入するので、薬液が葉裏に十分かかるように散布する。 ・葉で発病し、多発すると黄変して早期落葉する。 ・米国系品種で、発生が多い。
	[耕種的防除]	・古くなった粗皮をはがし、落葉を回収して、いずれも園外で処分する。 ・巻きヒゲや病斑のある結果母枝を除去して、園外で処分する。
晩腐病	休眠期	・萌芽直前、新梢伸長期、開花期、落花期～小豆粒期、袋かけ直前、袋かけ後～梅雨期が、防除適期である。
	生育期	・6月初めから7月中旬まで、降雨が多いと越冬源からの一次伝染が多くなる。また、成熟期に降雨が多いと二次伝染が助長され、激発する。 ・摘粒を迅速に終わらせて、袋かけ・笠かけ前の薬剤散布後は薬液が乾き次第、袋かけをすみやかに行う。
	[耕種的防除]	・袋かけでは、袋の中に雨滴が入らないように、止め金をしっかり果軸に巻く。 ・病原菌は結果母枝・果梗・巻きヒゲなどで越冬するため、果梗・巻きヒゲ・不要な結果母枝は取り除く。また、二番成り果房は格好の発生源になるので、見つけ次第、除去する。 ・露地栽培で発生が多く、多湿条件でより発病しやすいが、ハウスや簡易雨よけなどの施設栽培により、発生の減少をはかることができる。
黒とう病	休眠期	・萌芽直後、新梢伸長期、開花期、落花期～小豆粒期、袋かけ直前、袋かけ後～梅雨期が、防除適期である。
	幼果期 生育期	・萌芽直前から梅雨明けまでの感染期に降雨が多いと多発し、特に4～5月の連続降雨は、発病を著しく助長する。
	[耕種的防除]	・巻きヒゲや病斑のある結果母枝を除去して、園外で処分する。 ・落花後の花冠(花カス)を落とす。
灰色かび病	開花期～ 幼果期	・病原菌は低温・多湿条件を好むため、春に天候不順の時に突発的に発病する。 ・開花期前後から、予防散布を行う。
	[耕種的防除]	・密閉した湿度が高いハウスで発病しやすいので、換気により湿度を低下させる。 ・発病した花穂や果房は、見つけ次第取り除き、園外(ハウス外)に埋設する。
べと病	開花期～ 果実肥大期	・欧州系品種は罹病性が高く、米国系品種は耐病性である。 ・梅雨や秋雨により病徴が急速にまん延するので、必ず予防的な薬剤散布を行う。 ・病原菌は気孔から侵入するので、薬液が葉裏に十分かかるように散布する。
さび病	幼果期～ 果実肥大期	・病原菌は葉裏から侵入するので、薬液が葉裏に十分かかるように散布する。
	[耕種的防除]	・アワブキ属植物が中間宿主となるので、可能な限り周辺のアワブキを伐採する。 ・被害葉が伝染源となるので、発生園では落葉を収集し、園外で処分する。
うどんこ病	開花期～ 果実肥大期	・欧州系品種は罹病性が高く、米国系品種は耐病性である。 ・通風不良園やハウス栽培で、発生しやすい。 ・適度な湿度が保持され、4～5月の日照時間が長いほど発病が多くなる傾向がある。 ・開花前後から予防散布を行う。

病虫害名	防除時期	摘要
切り口および傷口のゆ合促進	剪定整枝時、 病患部削り 取り直後、 及び 病枝切除後	・切り口に、適量のトップジンMペーストを塗布する。
カイガラ ムシ類 コナカイガラ ムシ類	開花前 または 袋かけ以降	・薬剤防除は、ふ化直後の幼虫をねらって行う。 ・粗皮の間隙やせん定切り口など、暗くて狭いところに好んで寄生する習性があるので、枝幹にも薬液がたっぷりかかるように散布する。
	[耕種的防除]	・雌成虫が粗皮下で越冬するので、粗皮削りを行う。
アザミウマ類 チャノキイロ アザミウマ	開花前 落花後 袋かけ直前	・チャノキイロアザミウマでは、穂軸の褐変や果皮のコルク化が発生する。 ・幼果になってからでは防除効果が低いため、開花前から袋かけ直前まで防除につとめる。 ・袋かけ直前に薬剤を散布し、袋内への害虫侵入を防ぐため隙間がないように留め金を巻き付ける。 ・成虫の発生予察には、黄色粘着トラップが有効である。
フタテン ヒメヨコバイ	生育期	・幼虫・成虫ともに葉裏から吸汁することで、葉の表面に灰白色のカスリ症状を示す。 ・ハウス内での発生が多く、激発すると排泄物で果粒を汚染する。 ・5～6月に防除すると、その後の発生は少なくなる。
スカシバ類 ブドウ スカシバ クビアカ スカシバ	5月中旬旬 収穫直後	・ブドウを食害するスカシバ類として、ブドウスカシバおよびクビアカスカシバがある。 ・ブドウスカシバは、5月下旬～6月に幼虫が主に新梢の髓(中心部)を食害する。 ・クビアカスカシバは、スズメバチに擬態した成虫が6～8月に発生し、7月下旬以降に幼虫食害部から虫糞木くずが目立つ。 ・クビアカスカシバに対しては、枝幹部や株元に薬剤を散布する。
	[耕種的防除]	・クビアカスカシバは、虫糞の噴出部を見つけ、捕殺する。 ・薬剤付着および虫糞発見の効率を高めるため、粗皮はがしを行う。
ブドウ トラカミキリ	休眠期	・越冬幼虫を対象に、休眠期防除は樹全体に薬剤を散布する。 ・新芽・新葉に薬害を生じる恐れがあるので、萌芽前に散布を終える。
ハダニ類 カンザワハダニ ナミハダニ ブドウサビダニ	生育期 または 休眠期	・ハウス内での発生が多く、吸汁により葉が黄褐色や赤褐色に変色する。 ・緑系品種で、収穫期に加害されると果粒表面に茶褐点を生じる。 ・ナミハダニが激発すると、クモの巣状の糸張りが見られる。 ・発生初期に、薬剤を葉裏まで散布する。また、発生が多い場合は、散布間隔を短くする。 ・雑草中で繁殖するので、草刈りに合わせて薬剤を散布する。 ・抵抗性を発達させないように、同じ(系統)薬剤の連用はしない。 ・ 休眠期防除参照
	[耕種的防除]	・粗皮の下で越冬するため、休眠期に粗皮削りを行い、園外に持ち出す。
コガネムシ類 コガネムシ類 成虫	生育期	・主にドウガネブイブイ、ヒメコガネの成虫が葉を食害し、発生が多くなると果実も食害される。
	[耕種的防除]	・成虫は衝撃を与えると落下するので、反応の鈍い早朝に捕殺する。
ハマキムシ類	生育期	・チャノココクモンハマキが花穂では蕾、花、花梗を綴り合せて食害し、果穂では果粒と果梗の間に糸を張り、果皮や果肉を食害する。
モンキクロノ メイガ	生育期	・施設栽培に、寄生が多い傾向がある。 ・6～8月除葉被害の発生初期が、防除適期である。

ブドウ【殺菌剤・その他】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度(希釈倍率)								
									うどんこ病	さび病	べと病	灰色かび病	褐斑病	黒とう病	切り口及び傷口の癒合促進	晩腐病	銅水和剤による葉害の軽減
ぶどう	ICボルドー66D	銅水和剤	M1		-	-	200~700g/10a	散布		50倍	25~200倍					100倍	
ぶどう	Zボルドー	銅水和剤	M1		-	-	200~700g/10a	散布		500~800倍	500~800倍		500~800倍				
ぶどう	アリエティ水和剤	ホセリン水和剤	P7		収穫30日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布			800倍						
ぶどう	オーサイト水和剤80	キヤブタン水和剤	M4		収穫30日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布			800倍	800倍	800倍	800倍		800倍	
ぶどう	オマリワンアブル	ラコゾール水和剤	3		収穫前日まで	3回以内	200~700g/10a	散布	2000倍	2000倍		2000倍	2000倍	2000倍		2000倍	
ぶどう	キノド水和剤80	有機銅水和剤	M1		収穫45日前まで	4回以内(開花後は1回)	200~700g/10a	散布			1200倍			1200~1600倍			
ぶどう	ゲッター水和剤	ジエトフェンホルブ・チファネートチル水和剤	1,10		収穫45日前まで	1回	200~700g/10a	散布				1000~1500倍					
ぶどう	コサイト3000	銅水和剤	M1		-	-	200~700g/10a	散布		2000倍	2000倍						
ぶどう	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		収穫45日前まで	2回以内	200~700g/10a	散布		1000倍	1000倍		1000倍	1000倍		1000倍	
ぶどう	ストロビドライアブル	キノキシムチル水和剤	11		収穫14日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布	3000倍	3000倍	2000~3000倍	2000~3000倍	2000~3000倍	2000~3000倍		2000~3000倍	
ぶどう	テランアブル	ジチアノ水和剤	M9	劇	休眠期	1回	200~700g/10a	散布							200倍	200倍	
					【A】	2回以内					1000倍		1000倍				
ぶどう	ドクリンアブル	有機銅水和剤	M1		収穫45日前まで	4回以内(開花後は1回)	200~700g/10a	散布			600倍			600倍			
ぶどう	トップジンMベスト	チファネートチルベスト剤	1		【B】	3回以内		塗布									原液
ぶどう	トップジンM水和剤	チファネートチル水和剤	1		収穫45日前まで	1回	200~700g/10a	散布	1000~2000倍			1000~2000倍	1000~2000倍	1000~2000倍		1000倍	
ぶどう	トリミン水和剤	トリミン水和剤	3		収穫7日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布	2000~3000倍					2000倍			
ぶどう	ブルーセイバー	ベンチピラト水和剤	7		収穫7日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布	1500倍	1500倍		1500倍	1500倍	1500倍		1500倍	
ぶどう	フルビカアブル	メニビリン水和剤	9		収穫30日前まで	2回以内	200~700g/10a	散布	2000~3000倍			2000~3000倍					
ぶどう	ベント水和剤	ベノミル水和剤	1		休眠期	1回	200~700g/10a	散布							200~500倍	200~500倍	
					収穫45日前まで	3回以内			2000~3000倍		2000~3000倍	2000~3000倍	2000倍	2000~3000倍			
ぶどう	ホライズンドライアブル	シモザニル・ファメキッド水和剤	11,27		収穫21日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布			2500~5000倍		2500倍	2500倍		2500倍	
ぶどう	ボリアリン水和剤	イミダクダジン酢酸塩・ボリアリン水和剤	"[I-](I*),M7		収穫60日前まで	2回以内	200~700g/10a	散布	750~2000倍			750~1500倍	750~1000倍	750~1000倍		750~1000倍	
ぶどう	ムッシュボルドーDF	銅水和剤	M1		-	-	200~700g/10a	散布		500倍	500倍						
ぶどう	ランマンアブル	シアブファミド水和剤	21		収穫14日前まで	3回以内	200~700g/10a	散布			1000~2000倍						
ぶどう	ロブテール水和剤	イブロン水和剤	2		【C】	3回以内	200~700g/10a	散布				1000~1500倍		1000倍			
ぶどう	クレフソ	炭酸カルシウム水和剤						【a】									100倍

使用時期：【A】落弁期まで、但し、収穫75日前まで、【B】剪定整枝時、病患部取り取り直後、及び病枝切除後、【C】開花期~幼果期、但し、収穫60日前まで

使用方法：【a】銅水和剤に混用して散布

